

五 小 の 風 景

No. 5

五日市小学校長 國政 直文

規範性を高めるには

特別に暑い夏休みも終わり、元気な子どもたちの声が学校中に響き渡っています。このにぎやかさ、活気があってこそ学校だと感じます。子どもたちが、大きな事故もなく夏休みを過ごすことができたことに安心しています。

さて、広島市では「広島ではぐくんでいきたい4つの力」として、「規範性」、「感性」、「体力」、「コミュニケーション能力」を上げています。

今回は、この中で「規範性」についてとりあげてみたいと思います。「規範性」とは何でしょうか。広島大学大学院准教授の鈴木由美子先生は、「規範性とは、ルールやマナーを守ろうとする意識と態度」と定義されています。とても明確でわかりやすいと思います。

先日、鈴木先生の講演をお聞きして、なるほどなと考えさせられることが多くありました。その中で、まず大切だと思ったのは、国としてどのような人間を育てていくかという理念・目的が必要だということです。今、日本は世界各国の教育方法のいいところを学ぼうとしています。最近では、フィンランドの教育に学ぼうとフィンランド教育への熱が高まっています。それも大切なことだとは思いますが、まずは、これまでに大切にしてきたものつまり日本独自のもの＝日本人としての強みを目的にすることが、目的を達成しやすいのではないかと思います。

では、日本人の強みとは何かということですが、「規範性」というものがその一つにあげられるのではないかと思います。世界の人々から日本人が信頼・信用されている理由の一つは、日本人は「時間を守る」、「きまりを守る」つまり「規範性」が高いというふうに使われているからです。ただ、残念なことに最近ではそういった「規範性」というものが低くなってきているというのも事実です。だからこそ、これまで世界の人々から認められてきた「規範性」を子どもたちにはぐくもうとする本市の考えは今まさに大切なことだと思えます。

では、どのようにして「規範性」をはぐくんでいくのかということです。学校においては、道徳教育を中心に全ての教育活動の中ではぐくんでいくわけですが、家庭ではどうすればいいのかです。先日の鈴木先生の講演では、親から学んだ愛の感情や従順の力が、規範意識のもとになると言われていました。

まず、親の愛ですが、これは親の心配りを大切にということです。心配りとは、子どもの話を最後までしっかり聞いてやる、子どものことを信頼してやる(特に高学年では)、いくら忙しくても子どもとのコミュニケーションがとれる工夫をしてやるなど、子どもとしっかりと向きあうことではないかと思います。この親の心配りが、子どもの満足・安心・信頼につながり、そして子どもの中に「愛をお返ししたいという感情(お父さん、お母さんを喜ばせたい)」が生まれるのだそうです。

次に従順の力ですが、親は自分のためだけに存在するわけではないことを子どもに知らせるということです。何か用事をしている時に、子どもが親を呼びます。それに対してすぐに答えるのではなく、用事が終わったら話を聞くようにします。すぐには答えないから、子どもはいらだちます。しかし、待っていれば答えてもらえるという経験から、待つことはいいことだと思うようになります。つまり「親の言うことをきくことはいいことだ」という感覚を持ちます。このことで忍耐の力が育ち、従順の力(能力)がつかます。そして、そのことが、権利・義務意識につながり、自分は一人では生きていくのではないという感覚をもつようになるのだそうです。

親から学んだ愛の感情や従順の力という言葉がありました。この「親」という言葉を学校であれば「教師」という言葉に読み替えることができます。

いずれにしても、日本という国は資源が乏しい国ですから、人材で勝負をしなければいけません。そうしたときに、世界の国々にアピールできるもの、つまり人として信頼・信用されるということがとても重要だと考えます。そのためにも、「規範性」の高い人間を育てるために、学校・家庭・地域が一丸となって取り組んでいく必要があると思います。本校の教育目標「かしこい子どもを育てる」の「かしこさ」には、まさにこの「規範性」が含まれています。

今後も、子どもの健全な育成のためにご協力よろしく申し上げます。



